

学芸会配役

案内役（照明お手伝い後藤も）

りく

先生（照明お手伝い）

野球少年 A

野球少年 B

野球少年 C

野球少年 D

まさお

後藤

柴崎（野球少年かまさお）

妖精 A

妖精 B

妖精 C

妖精 D

妖精 E

妖精 F

妖精 G

妖精 H

♪…登場音楽

案内役「これはこれは、みなさん、どこかでお会いしたような、していないような。

(首をふり)さてさて・・・今回は・・・(本を読みだす)昔から人間はようせいが出てくるお話がだいすきだそうで・・・でも、その姿を見たものはまだ、だるれもない。すると、だれもがこう思っはずです。そう、妖精なんて、いないのだとね。

本当にいないんですかね・・・実はね・・・いるですよ・・・。あなたたちのすぐ近くに、それも、たーくさん。」

幕が開く

♪…カキーン

野球 A「いったぞーりく！」※声だけ

野球 B「たのむぞ、りく！それを落としたら！」※声だけ

りく「あわわわ」

※言いながら上手から後ずさりながら出てくる。りく、ボールを落とす。

♪…ゲームセット！

暗転↓照明夕方

♪…ゆうぐれの音楽

野球 C「あーあ」

野球 D「りくのせいだ。」

野球 A「りくのせいで負けたんだぞ！」

りく、下を見てうつむいたままだまる

野球 B 「おい、なんとか言えよ。」

野球 C 「むだだよ、こいつ、何言ってもいつもこう。」

野球 D 「落ちこんで野球やるくらいだったら、もうやらないでくれよな！」アハハハ

野球少年たちさっっていく。

りく、とほとほと上手に向かって歩き出す。かなりスローで落ち込みながら

♪ ∴ ぼくは、長野りく、いつもこう、何をやってもだめ。(りく、下をむく)

野球も、勉強も、友達関係も、何もかも、だめだめだ。(りく、だめだめをジェスチャーで)
でも、今日、そんなぼくに、空からきせきがまいおりたんだ。

♪ ∴ 何かが落下する音

りくの後ろ、下手側でがばくはつ

りく 「うわあ。」 頭をかかえてすわりこむ

りく 「なんだ？今は・・・」

煙のあがるところへ行く。めがねをとる

りく 「うわあ、なんだよ、めがねかよ。しかもダサイ。」

りく 「それに、ぼく、目がいいし、かけても意味ないし。」

ステージの真ん中まで来て、りく、めがねをかける。

♪ ∴ ようせい登場音

上手、下手、カーテンの中から、たくさんのようせいが出てくる(全員登場)

りく、こしをぬかす。

りく、めがねをはずす。ようせい、全員消えていく。静かになったら

りく 「え・・・これ？」めがねを指さし またかける

♪：ようせい登場音楽

大量のようせいが走り回る。これをもう一度くりかえす

りく 「ちょ、ちよっと君！」

ようせいAの肩に手をかける

全員の動きと、音楽がとまる

妖精A 「え！」後ろをゆっくりふりかえる

妖精B 「え！」りくをゆっくりみる

妖精全 「え〜！」りくをみる

妖精C 「どうして？」

妖精D 「どうして？」

妖精E 「どうして、見えるの？」

妖精F 「人間には、みえないはず」

妖精G 「人間には、聞こえないはず」

妖精H 「人間には、見つかつてはいけないはず」

りく 「そんなこと言っても・・・は・・・これ？」めがねをおさえる。

妖精A 「どうしよう」

妖精B 「どうしましょう」

妖精C 「どうしてくれましょう」

妖精D 「わ〜！」妖精たち、あわてふためく

妖精E 「人間にみつかったら、私たち・・・」

妖精F 「つかまって。」

妖精 G 「テレビに出て。」

妖精 H 「アイドルに！」

妖精全 「ちがうちがう。」

妖精 F 「つかまって。」

妖精 G 「虫かごに入れられ。」

妖精 H 「食べられちゃう！」

妖精全 「ぎゃー！」

妖精 F 「そうだ、あなた。名前は？」

りく 「ぼくは、りく、長野りく」

妖精 F 「長野りく、私たちとりひきをしましょう。」

妖精 G 「それがいいわ。りく。妖精はとりひきがとくいなの」

りく 「とりひき？どんな？」

妖精 H 「こんなのはどうかしら、あなたが私たちをみたことは秘密にするの。そのかわり、私たち

はあなたの役にたつことをするわ。」

りく 「役に立つことって？」

妖精 A 「たとえば・・・あ、あの人を見てて！」

ここで先生登場、妖精たち、先生に近づく

妖精 B 「このように、私たちは、人間には見えないの。」妖精、たくさん動く

妖精 C 「人間には聞こえないの。」妖精全員でさけぶ。

妖精 D 「だからこんなことをしても・・・」

妖精たち、先生にいたずらをする。

妖精E「ね、ばれないばれない。」

妖精F「これであなたの力になれるわ。どう？」

りく「いいよ。じゃあ、とりひきだ！」

妖精全「とりひき、せいりつね。」

妖精たち、それぞれ舞台からはける

暗転

♪∴「その日から、ぼくの人生は180度かわった。見えない妖精の力をつかって。」

全ライト

♪∴「カキーン」

野球A「いったぞーりくー！」

野球B「たのむぞ、りく、それ落としたら・・・。」

りく「はいはい。」

りく、ボールをみないできやつちする。

♪∴ゲームセット

野球全「やったー勝った！」

野球C「すごいじゃん、りく、みなおしたぞ！」
りくの頭をグローブでたたきながら

野球B「りくのくせにー！」

野球D「ボールをみないでとるなんて、まぐれか？」
りくのせなかをつつきながら

りく以外、ここで止まる

暗転

りくにスポット

りく 「説明しよう、今はまぐれではない。実はこうなっていたんだ。」

ライトアップ

りく 「まきもどしー」

全員 まきもどつていく。(素早く)

♪ カキーン

野球 A 「いったぞーりくー」

野球 B 「たのむぞ、りく、それ落としたら・・・」

りく 「はいはい」

♪ 妖精登場の音楽

妖精が出てきて、ボールをつかみ、りくのグローブへと持っていく。

ボールをりくのもとへとわたしたら、後は見守る。

♪ ゲームセット

野球全 「やったー勝ったー」

野球 C 「すごいじゃん、りく、みなおしたぞー」 りくの頭をグローブでたたきながら

野球 B 「りくのくせにー」

野球 D 「ボールをみないでとるなんて、まぐれか？」 りくのせなかをつつきながら

りく 「まぐれじゃないよ、じ、っ、りょ、く、さ。」

野球 A 「何だよ・・・そのいいかた、生意気だな！」

野球 B 「りくのくせにー」

りく 「今の、君たちでは、ぼくには勝てないよ、何をやってもね」

野球 C 「何だと・・・？」

りく 「あれ？聞こえなかったのかい？ぼくには、か、て、な、いよ！」

野球 C 「お前、本当に生意気だな。」

野球 B 「りくのくせに！」

野球 A 「こうなったら、決闘だ。」

野球 D 「よし、明日の午後5時、神社の前で待ってるからな！」

りく 「望むところだ！」

暗転↓夕方

♪ひびく音

りく、上手から歩いてくる

野球 A ～ D 下手から腕組みしながらにまたで登場（音楽つけるか）

野球 C 「おうおうおうおう！」

野球全 「おうおうおうおう！」

野球 A 「よく来たな！」

野球 B 「りくのくせに！」

野球 C 「逃げ出したかと思ったよ。」

野球 D 「今日は、お前を倒すために、最強の助っ人を呼んでるんだぜ。」

野球全 「まさおさん！」

♪まさお登場音

まさお、堂々と登場（空手道着を着ている）

まさお 「どういつかと思ったら、こんな弱そうなやつか。」

野球 A 「まさおさんはな、空手の日本チャンピオンなんだぜ？」まさおの肩をたたきながら

野球 B 「りくなんか勝てるわけがないんだよ。」

りく 「いいから、早くやろつよ」

野球 C 「何、何から何まで生意気なやつだ！」

野球 B 「りくのくせにー！」

野球 D 「まさおさん、やっつけてください。」

まさお 「じゃあ、えんりよなく！おりゃあ！」

まさお、りくの顔にパンチをするが、あたらない

まさお 「なぜだ、なぜ、あたらない？」

りく 「今度は、ぼくの番だね」

りくのパンチ1発でまさおは遠くへとんでいく。

まさお 「うわああああ」

野球全 「まさおさん！！」かけよる

まさお 「つ、つよい！50発くらいのパンチをもらった気分だ・・・。」

野球 A 「だいじょうぶですか、まさ・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

野球 B 「たてますか、まさ・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

野球 C 「おまえら何笑って・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

野球 D 「まさおさんにしつれ・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

りく以外、ここで止まる

暗転

りくにスポット

りく 「説明しよう、今のはこうなっていたのだ」

ライトアップ

りく 「まきもどしー!」

全員 まきもどっていく。(素早く)

まさお 「じゃあ、えんりよなく!おりゃあ!」

♪ :: 妖精登場音楽

まさおのパンチをとめる

まさお 「なぜだ、なぜ、あたらない?」

りく 「今度は、ぼくの番だね。」

りくのパンチと同時に妖精全員のパンチをまさおのおなかにあてる演技

まさお 「うわああああ。」

野球全 「まさおさん!!」 かけよる

まさお 「つ、つよい!50発くらいのパンチをもらった気分だ・・・。」

妖精、ここでA B C Dの後ろに回り込み、しゃべるたびにくすぐる。

野球 A 「だいじょうぶですか、まさ・・・あひゃひゃひゃひゃ!」

野球 B 「たてますか、まさ・・・あひゃひゃひゃ!」

野球 C 「おまえら何笑って・・・あひゃひゃひゃ!」

野球 D 「まさおさんにしつれ・・・あひゃひゃひゃ!」

まさお 「おゝまゝえゝらゝ」

まさおおこってA B C Dをおいかける

野球全 「ひええええええ」

野球少年下手ににげていく。

りくと妖精、ハイタッチをかわしていく。

暗転

♪…りくの録音

「こうして、ぼくは妖精たちの力を利用して、楽しい毎日を手に入れることができた。だけど、ぼくは少し、調子に乗りすぎてしまった。」

舞台チェンジ 学校にする。

ライトアップ

♪…キーンコーンカーンコーン

先生 「それでは、今からテストを始める、用意始め！」

♪…妖精登場音楽

妖精 A 「さあ、りく、何をすればいいの？」

妖精 B 「今度はどんな、楽しいいたずらをするの？」

りく 「今日は、テストのカンニングをしてもらおうよ！」

妖精全 「え！」

妖精 C 「いいの？そんなことして？」

妖精 D 「カンニングってとっても悪いことなんじゃ。」

りく 「いいからいいから！」

妖精 E 「……わかったわ。」

妖精たち、他の人のテストをみながらりくに答えを教える

暗転→ライトアップ（時間の経過）

先生 「それでは、今日はこの前のテストを返す！」

先生 「すつごく簡単だったのかな？100点が多かったぞ！」

先生 「後藤！100点！」

後藤 「やった！」

先生 「しばさき！100点！」

柴崎 「楽勝！」

先生 「長野・・・90点！1問まちがえたな、おしかったよ。」

りく 「はい・・・」

暗転→ライトアップ

妖精たち、せいざをさせられている。

りく 「どついうこと！なんで、ぼくが100点をとれないの？」

妖精F 「ご、ごめんなさい、私がうつすところをまちがえてしまったの。」

妖精G 「わ、わざとじゃないのよ、りく、ゆるしてあげて！」

りく 「ゆるすもんか！ぼくは100点がとりたかったんだぞ！」

妖精H 「妖精にもまちがえはあるわ・・・りく、それにやっぱりカンニングは」

りく 「うるさいうるさい！どいつもこいつも、使えない妖精ばかりだ！」

次から、妖精はセリフを言っでは舞台下手にはけていく。

妖精A 「ひ、ひどい・・・」

妖精B 「そんな言い方・・・」

妖精C「私たち、友達だと思ったのに・・・」

妖精D「せっかく仲良くなれたと思ったのに・・・」

妖精E「あなたは、もうその眼鏡を使えない・・・」

妖精F「あなたは、私たちの信頼をうしなった・・・」

妖精G「信頼がないと、もう見えないの・・・」

妖精H「さようなら」

妖精全「さようなら」ぶたいうらで小さな声で

りく「え、またまた、そんなこと言って、このめがねをかけていれば。」

りく「あ、あれ、妖精が見えない・・・見えなくなっている・・・」。

暗転

♪：りくの声

「こうして、ぼくには、再び妖精の見えない世界がおとずれた。」

りく、下手から出てくる 野球少年、上手から出てくるが、りくをよけていく。

りく「ねえ、」

野球A「ひえええええええ」走ってにげていく。

りく「ねえ、」

野球B「この前はごめんなさい！」走ってにげていく。

りく「ねえったら。」

野球CD「もう、いじわるしませーん」

りく「はあ・・・むなしい。」

りく「ぼくがまちがっていた。こんなめがねにたよっていたぼくがいけないんだ。」

りく、めがねをなげすてる。

りく 「妖精たち、この前はごめんよ！ぼくが本当にほしいものはテストの点でも力で

もない、友達だったんだ！」

♪…妖精登場音

※しかし、りくには見えていない。

妖精全 「りく！」

妖精 A 「ありがとう！」

妖精 B 「あなたはやっぱり心のきれいな人間ね！」

妖精 C 「私たちはあなたの」

妖精全 「友達よ」 妖精たち、りくのまわりを何度か回ってはけていく

♪…案内役登場

案内役 「ほら、妖精はいたでしょう？でもね、妖精は心のきれいな人にしか近づきません。

妖精と友達になりたいと思えば、もしかしたら、あなたも会えるかもしれませんね。

そのさいは、いたずらのやりすぎにはご注意ください。それでは、またどこかでお会いしましょう

う……。」

ブザー 終了。